も、本来使用でないものも含めて使われ過ぎて問題が起きているのが現状です。

そもそも医療制度は確立していた中で介護保険制度は始まりました。その中で、国民の介護を一般化したことは間違いなく成果です。今だと分からない方もいるかもしれませんが、「介護＝お嫁さん」という時代もあったのです。そこにいろいろなサービスができ、介護保険を使ってうまくやっていく方法ができました。

ところが、最近、介護に関して疑問を持ってしまう2つの出来事がありました。1つは、98歳の女性で一人暮らし、自分の食事は全部自分で作られるので、ホームヘルパーさんが食材を買いに行くようにされていました。ただ、高齢だし火を使ったり包丁を使われるので、ケアマネジャーさんが心配をして、宅配弁当サービスを導入し、ご本人が調理をしなくてもよい環境を作ってくれました。実は介護保険の理念は「自立支援」です。お手伝いさんではありません。これは正しいのか、それとも出過ぎたことのか？

もう1つ。高齢者に対する宅配弁当サービスは基本的に介護保険外サービス。高齢者に内容も栄養も形態も調整したものを自宅まで届け、安否確認などのサービスもあるのに500円ちょっと。保険外なので会社にそれ以上のお金は入りません。だからこそ、配達する方のコストは安く、同じことができる人はピザの配達などに行くそうです。今、コンビニ弁当はいくらですか？それを持ってきてくれたらいくらですか？

生活の中で自己負担が増えるとすぐにニュースになります。医療や介護の話だと「命が不安」などという言葉がメディアで浮かびます。そのために苦労させられている方がいることは国民として知らなければなりません。「安いから使う」はなくさなければ良くならないのです。

人が動くとお金が動きます。そのお金を保証してこそ先進国です。医療はまだ恵まれています。日本がもっといい国になるためには、介護の現場で「必要だから使う」とともに「お金を出しても使う」がいなければならないと思っています。

来春からふれあい歯科ごとうに参加してくれる管理栄養士と日本の介護や制度についても話をしています。日本の介護は変えていきたいです。こんな小さな診療所が社会を変えることが出来たら面白いですね。